

スヴァーリ：イルミナティ離脱者が語る（2の2）

——マインド・コントロール、人身御供、血統

【訳者解説】最後のセクション「一般人の否定メカニズム」で、スヴァーリが悲痛の思いで語っていることは重大である。我々全体を救うために、文字通り命を賭けて、これだけ詳細に真実を語ってくれる彼女を、見殺しにするようなことがあってはならない。しかし、この発言から十数年経った現在、少なくともネット社会では、彼女をはじめとする「離脱者」発言が、重く受け止められるようになったと思う。たったこれだけの話の中で、我々はどれだけ多くの重大な事実を知っただろうか（これを圧殺しようとするメディアの存在も含めて）。

彼らの幼児教育の実態（「暗殺者トレーニング」）はすさまじい。これは徹底した人間性破壊の教育であり、サイコパスを意図的に創り出す努力である。当然、それには苦しみが伴う。しかし彼らは、どんなに苦しくても、神に逆らうという使命を全うしなければならない。ここは「イルミナティ・インサイダーたちの明かす、エリート集団の秘密のからくり（2の2）」の HiddenHand の証言を併せ読むべきである。これは「あいつら」の問題ではない、我々の問題である。なぜなら、「ここには一つの我々しか存在しない」からである。我々是一个の生命体として、ホログラムとして存在する。分離（separation）は迷妄である。

そう考えれば、我々は自分が救われるためには、真っ先に彼らを救わなければならない。彼らの罪状は徹底的に暴かねばならない。しかしその上で許さなければならない。悪人が最も救いの対象にならなければならない。親鸞の「悪人正機」の教えが、ここで初めて生きてくるとも言える。Svali や HiddenHand の発言からわかるように、イルミナティは我々よりも、はるかによく神を知る人たちである。

Henry Makow Ph.D

October 14, 2002

彼らは人種差別主義者か？

スヴァーリ：

「多くのイルミニストは“第4帝国”計画を内部にもっています。イルミナティは人種差別主義で、非常に“アーリア人”的な将来展望をもっています。彼らは、彼らの定義による“純粋”と“聡明”のルール、それに儀式を強く信じていて、彼らの儀式では、時々、少数者が殺されることがあります。

彼らは、自分たちの子供や子孫によって、支配するための“遺伝的に優秀な”人種を育成しようとしています。彼らはまた、プラトンの「共和国」を信ずる者たちで、彼らの考えるNWO（新世界秩序）によって、この“ユートピア”のルールを実現させるのは自分たちだと考えています。彼らのユートピアでは、インテリゲンチアが支配し、一般大衆のような「羊」は、そのリーダーに従うことになります。それが彼らの世界観です——つまりオカルトのリーダーが“光を得た者”で聡明であり、平均的な人間は、鼻づらを引っ張られる羊です。」

フリーメイソン団

スヴァーリ：

「フリーメイソンとイルミナティは結束しています。これが誰かを怒らせたとしても構いません、事実ですから。バージニア州アレクサンドリア（この都市そのものがエジプトのアレクサンドリアから名付けられたもので、イルミナティ活動の温床です）のメイソンの寺院は、ワシントン DC 区域の、イルミナティの学問と教育の中心になっています。私はそこへ何度か、連れていかれたことがあります。学問と高度な儀式のために、一つレベルを上げるテストを受けるためです。このメイソン団のリーダーたちもまたイルミニストです。

これは私が住んだすべての大都市で同じでした。トップのフリーメイソンたちはまた、トップのイルミニストでした。私の母方の祖父母は、ともにペンシルベニア州ピッツバーグ市の高位のメイソンで（イースタン・スターの会長で、33 階級メイソン）、彼らは同時に、その区域のイルミナティのリーダーでした。

すべてのメイソンがイルミナティかというと、そうではありません——特に低い階級では。彼らは、より大きな寺院で、真夜中に行われる儀式については何も知らないと思います。その多くは、おそらく優秀なビジネスマンでクリスチャンです。しかし私は、32 階級以上で、イルミナティでなかった人は一人も知りません。この集団は、自分たちの活動の“フロント”として、フリーメイソン団を創るのに協力したのです。」

CIA、FBI などにすべて潜入している、モルモン教なども同じ

スヴァーリ：

「FBI の責任者や指導者たちもまた、その多くはイルミナティです。CIA は第二次大戦後、ドイツの科学者を連れてくるのに協力しました。彼らも、その多くが自分の祖国でイルミナティの指導者だったので、両手を広げてアメリカのグループに歓迎されたのです。彼らもまた、自分たちの研究で得た情報のすべてを、イルミナティに教えたのです。

モルモン教は何年も前、1950 年代に、イルミナティ指導層との会合において友好関係を結

びました。同じことは、エホバの証人についても言えます。」

冷戦

スヴァーリ：

「ロシアは、決して我々にとって脅威だったことはありません。マルクス主義はイルミナティの資金援助を受けたもので、資本主義との釣り合いを保つものと考えられていました。イルミナティは、対立する勢力のバランス、敵対者間の綱引きということを重視しています。彼らは歴史を、複雑なチェス・ゲームと見ており、一方を援助しておいて、今度は他方を援助し、そして究極的には、混乱と分裂から…というわけです。彼らは究極的に政党を超越していますから、笑っているのです。こうした年月の間にも、西側のトップの金融資本家が、ひそかに東側あるいはロシアの“敵対者”と会い、“ひつじ”どもがいかにか騙されているかを見て、大笑いするでしょう。私はここで、教えられたこと、また観察したことをお知らせしているのです。

彼らは真の意味の国際的グループであり、このグループのアジェンダは、いかなる国家的感情をも超えています。またこれらのグループで、メンバーを取引するということもあります。ロシアのトレーナーが、しばらくの間、アメリカに来て仕事を完成して帰国する、またその逆のこともあります。」

暗殺者トレーニング

スヴァーリ：

「これが訓練の方法です（私も同じ訓練を受けました）——

（1）子供が2歳になったら、その子を電極のついた金属の檻に入れる。その子に激しいショックを与える。

（2）子供を出してやり、子猫をその手に抱かせる。子猫の首をひねるように、その子に命令する。子供は泣き叫んで拒否する。

（3）子供を檻に入れ、彼らが気が遠くなり、もはや叫ぶこともできなくなるまでショックを与える。

（4）子供を外へ出し、子猫の首をひねるように、もう一度命令する。今度は、子供は全身を震わせながら泣き叫ぶが、拷問を恐れてそれを行う。それからその子は隅へ引き下がり、やがて嘔吐する。すると大人は“よくやった、えらい”と褒めてやる。

これが最初の段階です。動物たちはそのうち、子供たちが大きくなるとともに、大きくなります。動物たちはどの時点かで、VR（仮想現実）のセットか、または本物を使って、赤子を殺すように強制されます。子供たちは9歳までに、銃を組み立て、狙い、命令に従って、的に向かって発砲することを教えられます。それから本物らしいマネキンで練習します。次には動物で練習します。次に彼らは、“消費可能な者たち”（expendables）か、またはVRを使って練習します。彼らはうまくやったときには非常に褒められ、応じないときには拷問を受けます。

子供あるいはティーンエイジャーが大きくなるほど、トレーニングは高度になります。15歳までに、ほとんどの子供は、観客たちの前で（古代の剣闘士の試合のように、この“ゲーム”を見に来るお偉方の前で）一対一の闘争をするように強制されます。こうした取り組みは、死ぬまで続けられることはめったになく、通常は一方の子供が屈服するまでです。彼らは考えられるあらゆる武器を使い、命がけで戦うことを学びます。子供が闘争に負けると、彼らのトレーナーによってひどく罰せられます——彼らは面子を潰されたからです。もし勝てば、“強くて”武器の使い方が優れていると、再び褒められます。21になるまでに、彼らは、殺せという命令暗号によって動く、よく訓練された闘争/殺し機械になっており、命令に従う意欲をもっていることを、何度も繰り返しテストされています。これはドイツのイルミナティの子供たちの育てられ方であり、私自身もそこを通過してきました。」

家族の信頼

スヴァーリ：

「彼らは、自分の子供を拷問しながら、「私はお前を愛するからこんなことをするのだよ」と言います。彼らにとっては、最大の愛は、子供を強くすること、どんな手段を使っても、出世しこのグループを指導するのに適した者にすることです。

もしあるリーダーが、ある子どもを見て、その子を売春婦にしたいと思えば、愛する親はその子をくれてやるでしょう。その子の地位が上がるのがありがたいからです。また彼らは、裏切りということを最大の善とみなします。彼らは、あらゆるニセの場面をこしらえて、子供たちが決して公然と他人を信用しないように教えます。

私は何百という、もだえ苦しむような、ニセの仕掛けや裏切りを覚えています。そして私が裏切られ傷ついたとき、「それが人間の心というものだよ」と聞かされました。私にそういうことをする人たちは、いつか私の役に立つ、価値ある何かを教えているのだと考えていたのです。そして、この集団の邪悪で政治的な性格を考えれば、ある意味で、彼らは正しかったのです。ナイーブな者たちは騙され、傷つきます。私は、子供を愛するがゆえに、こうした目になるべく逢わせないようにする親を何人か見てきましたが、しばしば彼らは、他の家

族のメンバーに付け込まれました。彼らはこうした親を“弱い”、子供を教育するのに“不適格な”者と見たのです。」

風紀

スヴァーリ：

「彼らの大部分は傷つき、虐待された犠牲者で、集団を逃げ出すことはできないと思っている者たちです。構成員全体を通じて、大きな不満が渦巻いています。もしメンバーが、脱出する（そして生きる）ことが本当に可能だと信じられるならば、大量脱出が起ころうでしょう。私の知っているトレーナーの多くは（邪悪で、拷問好きの、小児性愛者を、私は何人か知っています）、自分がやっていることによって幸福では**ありません**でした。彼らは静かにため息をついたり、また表情によって、自分がやらねばならないことに不満をもっている様子を示しました。彼らはただ、昇進の希望ゆえに、諦めて仕事をしていました。

このグループで位階が上がる者たちの前にぶら下げられた、一番大きなニンジンの一つが何であるか、知っていますか？ それは人々を傷つけなくてもよくなること、そして虐待されなくて済むようになることです。（これは本当のことです——グループであなたより位の高い者だけが、あなたを虐待できるので、誰もが、候補者のプールが次第に少なくなる高位へ昇りたがるのです。もちろん彼らは、自分より下なら誰でも虐待することができ、それが動機になっています。

イルミナティは、非常に政治的な、人の背中を刺すタイプのグループで、これは“犬が犬を食う”という精神構造です。すべての者が昇進を求めます。彼らは“いい人”ではなく、他者を邪悪に利用し、操作する人々です。彼らは、地位、権力、カネのためなら、どんな犠牲も払うのです。

彼らは決して、自分たちのアジェンダやカルト活動を、公然と打ち明けることはありません。彼らはしばしば自分たちのことを忘れています。彼らは共同社会では、十分に尊敬され、“クリスチャン”らしく見えるビジネス・リーダーです。共同社会でのこのイメージが、イルミナティにとっては非常に重要なのです。彼らは、ごく通常の、尊敬される外面を維持するためなら何でもするでしょう。そして、さらけ出すことを**軽蔑**するのです。

私の知っていたイルミナティで、その昼間の生活で、心の冷たい、悪人らしい様相をもっていた人は一人もいません——ただ、アルコール中毒患者のように、仕事のできない人物はいました。イルミニストを駆り立てる分裂症のようなものが、彼らの最大の隠れ蓑になります。…ほとんどではないにしても、多くのこういった人たちは、夜間に彼らの巻き込まれていた大きな悪に、完全に気づいていないのです。」

テレビ

「ところで、何年か前に、「テレビの暴力場面は、子供たちの振舞いに影響を与えない」と述べた研究発表があったことを覚えていますか？ これに助成金を出したのは誰だと思えますか？ ろくでなしの一味ですよ。人が観るものは必ず影響を与えます。これは、この集団の行動心理学者にはよくわかっていることです。実は彼らは、テレビこそ、“一般大衆”に影響を与えるために彼らが用いる道具だと知っているのです。それは平均的な市民に、全面的な人格変化を起こさせることはできませんが、しかし徐々に感覚を鈍らせて、暴力、ポルノ、オカルトなどを受け入れさせ、幼い子供の感受性に影響を与えます。」

ロック音楽

「私は、Britney Spears とか Eminem といった人たちは、彼らに利用されて、彼らの好きな歌を歌わせられているのだと思います。（彼がネオナチ風の恰好をして、ヘイト・ソングを歌っているのに気づきましたか？ これは偶然ではありません。）実は、トップのポップシンガーたちの多くは、“ミッキーマウス・クラブ”から来ているのです。（そう、ウォルト・ディズニー・イルミニスト帝国です。）彼らは、忠誠を誓うかマインド・コントロールかの引き換えに、スターダムを提供されているのだと思います。

なんと多くの歌詞が今日のポップ/ロックで、自殺、暴力、絶望、またはニューエイジ・スピリチュアリティを推奨していることでしょう。ちょっと、これらの歌の歌詞を手に入れて、読んでみてください。」

イルミナティの弱点

スヴァーリ：

「1. 彼らの傲慢（これは前に言ったと思います）が彼らの弱点です。これらの人々は、自分たちがアンタッチャブル（手が出せない）だと考えていて、これが彼らを不注意にさせることがあります。

2. もし奇跡が起こって、十分多くの人々がこのことを真剣に受け止め、何らかの組織を作ってイルミナティの支配計画を阻止し始めたら、祈りと神の導きによって、おそらく彼らは止められるでしょう。私は本当に、心の底からそれを願っています。

3. ポルノと子供を使う売春行為、麻薬の密輸入と銃の取引をやめさせたなら、彼らの利益のかなり大きな部分を奪うことになるでしょう。彼らはスローダウンするかもしれませんが。しかし正直なところ、それのものをやめさせることは、この集団そのものをやめさせるほど難しいでしょう。」

一般人の否定メカニズム

スヴァーリ：

「証拠はそこにあるのです。しかし私の見たところ、平均的な人は知りたがらないのです。そしてそれと面と向き合っても、目をそらそうとするのです。

フランクリン事件[1980年代に発覚した、イルミナティによる子供相手の性行為集団事件]はその好例です。どれほどの証拠がそこから出てきましたか！あるいはMKウルトラ文書が極秘を解かれて、現実だったことがわかりました。それでも人々はそれを無視しています。

よろしい、私はもう壇上から叫ぶのはやめましょう。しかし、メディアが儀式の虐待を軽く扱おうとするのは、平均的な人々の中に、現実を知らなくてもいいという考えを深く植え付けるものだと思います。実際、どうしたら人は、人類の大きな悪の事実と直面することができるでしょうか？彼らが神への強い信仰をもつか、それとも、どうすることもできない証拠を見せつけるしかないのでしょうか。我々は、我々の種族の最上のものを知りたいのであって、最悪のものではないのでしょうか。

私は、世の人々は、たとえわかっているとしても、イルミナティに対し何もする気がないのだと思います。こんな冷笑的な言い方をして申し訳ありません。しかし、それは私の生涯の経験に基づくものです。

イルミナティ集団は、誰がこんなものを印刷しようが、また自分たちが“暴かれ”ようが平気です。なぜなら彼らは、メディアによる大宣伝をうまくやったことによって、大多数の人々がそれを信じないことを当てにしているからです。（「ニューズウィーク」や「タイム」が最近これを、嗤うべき陰謀論以外の何物でもないとして取り扱った記事を見ましたか？Time-Warnerは誰が所有していると思いますか？）

私は5年前、指導者会議で、まさにこの問題について、彼らが笑っていたのを聞いています。そして彼らの態度が、その後大きく変わったとは思えません。もし人々が本当にこれを信じ、行動を取ることができるならば、私は非常に驚くとともに、非常にうれしく思います。

Source: <http://projectcamelot.org/svali.html>